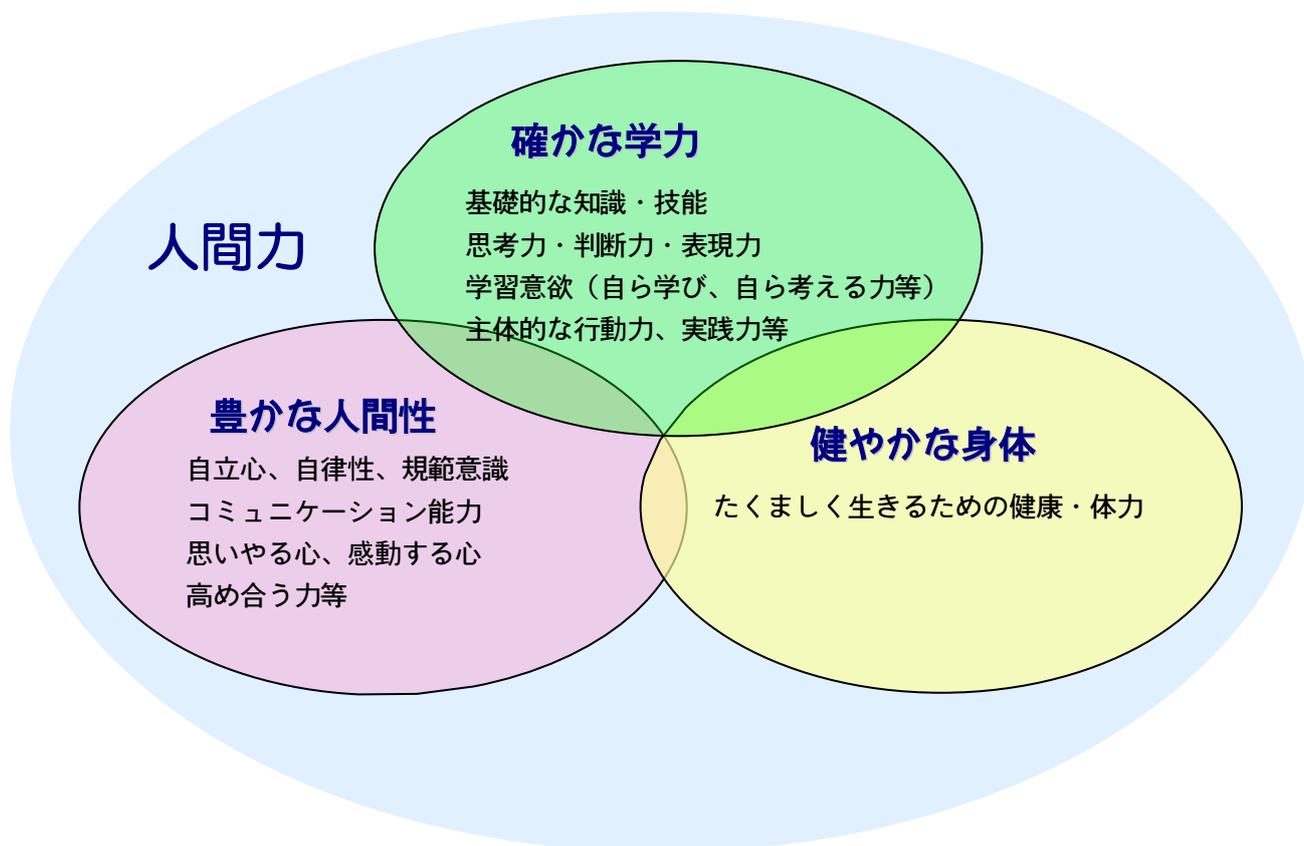


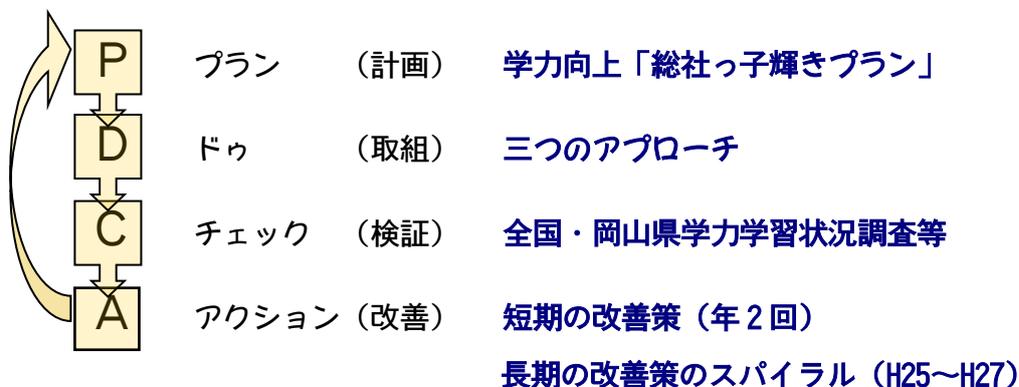


# 「人間力日本一の総社っ子！」

～ 人間力あふれる総社っ子を目指して ～



## 「人間力日本一の総社っ子！」を目指した PDCAサイクル



# I 学力向上「総社っ子輝きプラン」の概要

社会経済の在り方が大きく変化している中、子どもたちが将来自分の力で様々な困難を乗り越え、自分の道を切り拓いていくために必要な「生きる力」を養うことは不可欠である。

「生きる力」とは、「**確かな学力**」「**豊かな人間性**」「**健やかな身体**」が挙げられるが、これをバランスよく育むことは学校教育において重要である。

総社市では、これらの力を人として生き抜く力すなわち『**人間力**』と名付け、『**人間力日本一の総社っ子**』を合い言葉に、人間力あふれる子どもを育成していきたいと考えている。

そのために、平成 25 年度から 3 年間の計画で、「**確かな学力**」の育成に重点をおき、**学力向上「総社っ子輝きプラン」**に取り組む。

本プランは、多様な現代社会の中で生き抜くために、**健やかで豊かな心と体を土台に、確かな学力の向上を目指すことを目的としたプラン**である。

本プランによって、単に標準的な学力調査の点数を上げることをのみを目的としているのではなく、社会で生き抜く力、すなわち「**基礎的な知識・技能**」はもちろんのこと、**思考力・判断力・表現力等の「応用力**」やそれを**実践するための行動力等**を含む広い意味での確かな学力を育成することにより、『人間力』を身に付けさせたい。

また、保幼小中 15 年間を一くくりとして人間力あふれる総社っ子を育成する視点を大切にしていきたい。

## ～ 総社市の目指す子ども像との関連 ～

「総社市民憲章」を基本理念とした総社市教育振興基本計画の中に、総社市の目指す子ども像「**郷土を愛し、夢に向かって共に伸びる子ども**」が示されている。

夢や目標に向かって努力をする子どもを育てていくために、学校は、確かな学力とともに、夢や目標に向かって仲間と共に努力する態度を育成することを目指している。その土台となる健やかで豊かな心と体の育成は、不可欠であると考えられる。

つまり、この「**総社っ子輝きプラン**」は、**総社市の目指す子ども像を実現させるために重点化されたプランであると考えられる。**

## ～ 学力向上に向けた取組の背景 ～

平成 19 年度から全国学力・学習状況調査が実施され、それに伴い平成 20 年度から平成 22 年度まで総社市学力・学習状況調査を独自で実施した。平成 23 年度からは岡山県学力・学習状況調査が始まり、平成 24 年度は、岡山県学力・学習状況調査の結果が公表された。

平成 22 年度から実施している「**だれもが行きたくなる学校づくり**」のプログラムも 3 年目を終えている。平成 24 年度全国及び岡山県の学力・学習状況調査の結果から、総社市の子どもの学習の基盤づくりとも言えるこの取組は、学力向上にもつながっていると分析している。

学力向上に向けた取組が全国的に進む中、総社市内の小・中学校のこれまでの実践を振り返り、ここで新たな取組をスタートさせ、子どもたちの力を更に伸ばしていく必要がある。

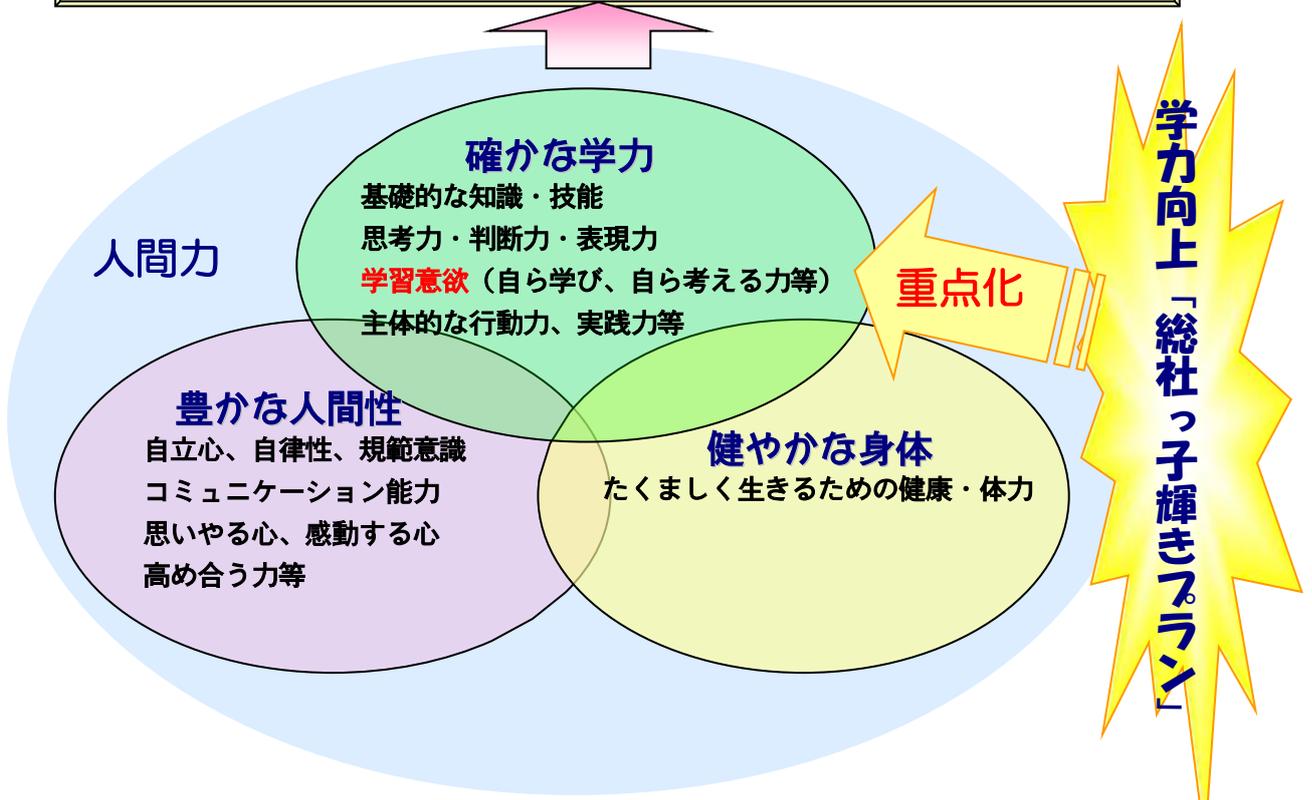
～ 本市の改善すべき点 ～

- ①正答率中上位層の学習意欲の低下
- ③家庭学習の質と量の不十分さ

- ②「応用力・活用力」の低下
- ④学校教育環境の格差

## 「人間力日本一の総社っ子！」

人間力 あふれる総社っ子の育成を目指します。

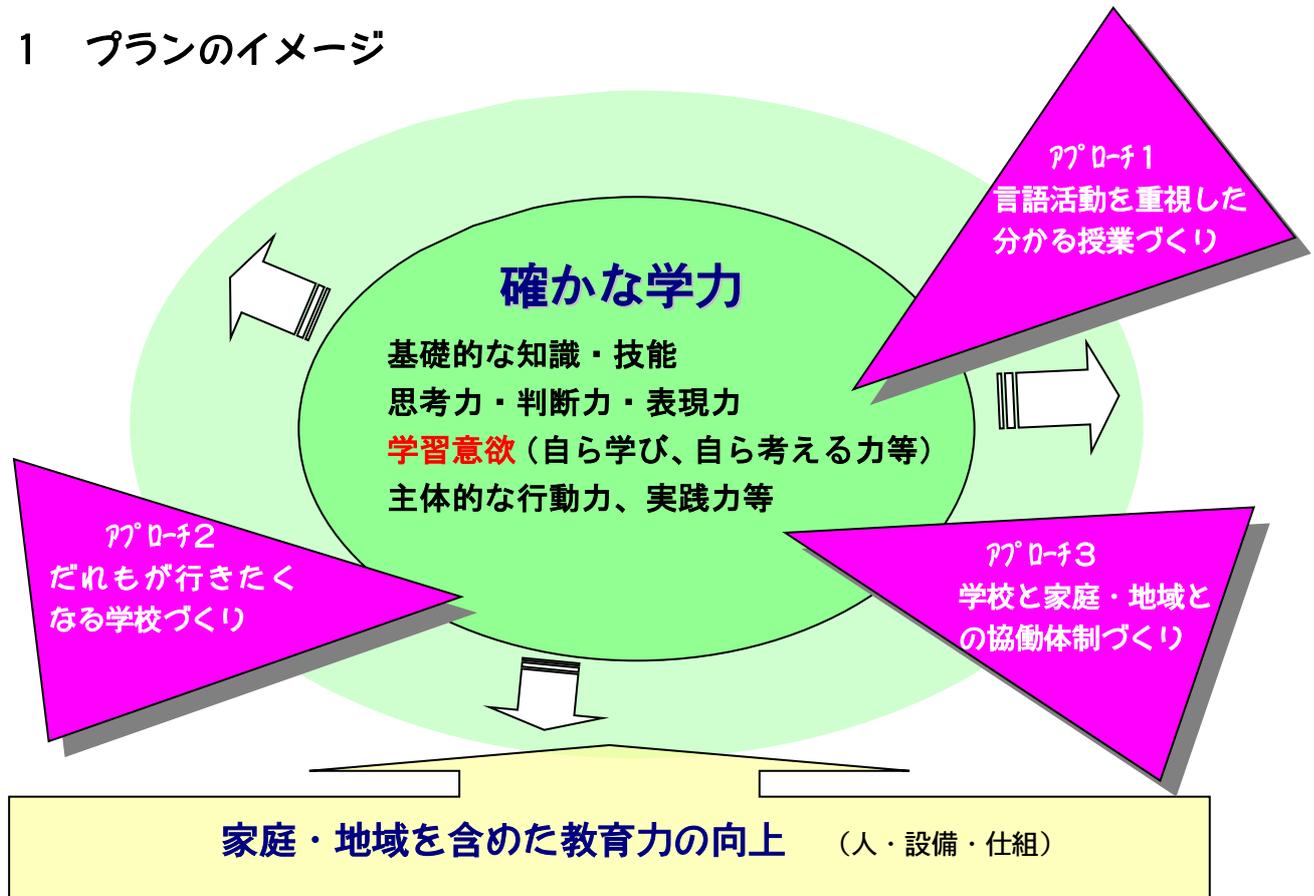


<b>確かな学力</b>	基礎的な知識・技能の習得を重視し、自ら学び、自ら考える力等の学習意欲の向上を図ることによって、思考力・判断力・表現力等の育成を推進する。 ⇒ <b>目指せトップレベル！自ら考え学ぶ姿勢NO.1</b>
<b>豊かな人間性</b>	自立心や自律性、規範意識をもつ子どもの育成を目指すとともに、協調性やコミュニケーション能力、思いやる心、感動する心等をもった子どもの育成を更に推進する。 ⇒ <b>進んで挨拶NO.1・仲間と共に高め合う子ども</b>
<b>健やかな身体</b>	意欲や忍耐力等の基盤となる健康・体力の向上を保幼小中で、家庭・地域と連携し推進する。 ⇒ <b>家庭・地域と連携した「早寝・早起き・朝ご飯」</b>

## Ⅱ 計画

### 学力向上「総社っ子輝きプラン」

#### 1 プランのイメージ



「確かな学力」を身に付けるために、日々の授業において考えたことや学んだことを表現したり活用したりする学習活動の積み重ねが重要である。日々の授業と放課後等の補充学習や家庭学習を一連のつながりとしてとらえ、**子どもたちの自ら学ぶ意欲の一層の向上を図る**必要がある。

#### アプローチ1 「言語活動を重視した分かる授業づくり」

応用力育成の土台となる基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、その基礎的な知識・技能を活用することにより、理解が一層深まるといった効果も期待できる。さらには、基礎的な知識・技能の習得と応用力の育成が進むことにより、子どもたちが「分かった」と実感すれば、学習意欲も向上し、確かな学力の育成への相乗効果となる。

#### アプローチ2 「だれもが行きたくなる学校づくり」

このプログラムを定着させるとともに、保幼小中と連携し実施することによって、あいさつなどの基本的な生活習慣のみならず、安心して学び合い、高め合うことのできる人間関係づくりが一層進むと考えられる。これが基盤となり、夢に向かって自分らしく努力することができる子どもの育成を目指していく。

#### アプローチ3 「学校と家庭・地域との協働体制づくり」

一人一人の子どもたちに対応した具体的な支援のために、学校と家庭・地域とが協働して子どもたちを育てる体制を整えることによって、確かな学力を育成する上での基盤が強固になると考えられる。

## 2 プランの数値目標 (平成27年度までの達成目標)

(1) 全国学力・学習状況調査における目標

### 市内全小・中学校…全国水準を上回る

- 平成28年度調査において、全国の平均正答率を上回る。
- 平成28年度調査において、標準化得点を101以上にする。

学年	標準化得点	国A	国B	算・数A	算・数B
小学校 第6学年	H28 <b>101以上</b>	<b>H28 全国より +1ポイント</b>			
	H27 100以上	H27 69.7%	H27 64.1%	H27 75.1%	H27 44.2%
	H26 98.5以上	(-0.3P)	(-1.3P)	(-0.1P)	(-0.8P)
	平均正答率 (全国との比較)	H26 71.9%	H26 55.9%	H26 76.9%	H26 57.6%
	H27 <b>99.8</b>	(-1.0P)	(+0.4P)	(-1.2P)	(-0.6P)
	H26 99.5	H25 61.5%	H25 46.8%	H25 74.6%	H25 57.4%
H25 99.3	(-1.2P)	(-2.6P)	(-2.6P)	(-1.0P)	
H24 97.3	H24 78.2%	H24 50.2%	H24 66.8%	H24 52.9%	
		(-3.4P)	(-5.4P)	(-6.5P)	(-6.0P)
中学校 第3学年	H28 <b>101以上</b>	<b>H28 全国より +2ポイント</b>			
	H27 100以上	H27 73.3%	H27 62.1%	H27 60.4%	H27 36.8%
	H26 99以上	(-2.5P)	(-3.7P)	(-4.0P)	(-4.8P)
	平均正答率 (全国との比較)	H26 79.4%	H26 50.0%	H26 67.5%	H26 59.3%
	H27 <b>98.0</b>	(±0P)	(-1.6P)	(-0.4P)	(-1.2P)
	H26 99.8	H25 78.7%	H25 68.6%	H25 63.5%	H25 40.8%
H25 100	(+2.3P)	(+1.2P)	(-0.2P)	(-0.7P)	
H24 98.5	H24 73.9%	H24 61.1%	H24 60.2%	H24 46.3%	
	(-1.2P)	(-2.2P)	(-1.9P)	(-3.0P)	

(2) 岡山県学力・学習状況調査における目標

### 4教科平均正答率…県内 No. 1

- 平成28年度調査において、全教科県の平均正答率を4ポイント上回る。
- 平成28年度調査において、平均正答率40%以下の生徒の割合を15%以下にする。

学年	4教科平均	国	数	社	理
中学校 第1学年	<b>H28 県より +4ポイント</b>				
	H27 62.1%	H27 63.5%	H27 63.5%	H27 54.2%	H27 67.1%
	(+1.2P)	(+0.8P)	(+0.1P)	(+2.6P)	(+1.4P)
	平均正答率 (県との比較)	H26 68.0%	H26 59.1%	H26 54.7%	H26 52.6%
	H26 58.6%	(+0.6P)	(+1.4P)	(+0.8P)	(+0.2P)
	H25 52.7%	H25 57.8%	H25 44.0%	H25 62.9%	H25 46.1%
H24 65.0%	(-0.2P)	(-2.2P)	(+0.5P)	(-0.1P)	
	H24 74.3%	H24 66.5%	H24 62.2%	H24 57.0%	
	(+2.9P)	(+3.3P)	(+3.5P)	(+2.1P)	

平均正答率 40%以下の 生徒の割合	<b>H28 40%以下の生徒 15% 以下</b>				
	<b>H27 15.7%</b>	<b>H27 13.7%</b>	<b>H27 19.2%</b>	<b>H27 24.0%</b>	<b>H27 5.7%</b>
	↑	↑	↑	↑	↑
	H26 21.2%	H26 10.7%	H26 22.9%	H26 24.4%	H26 26.6%
	H25 31.0%	H25 16.3%	H25 45.6%	H25 14.4%	H25 47.6%
	H24 12.7%	H24 5.2%	H24 11.6%	H24 16.8%	H24 17.1%
H23 16.4%	H23 5.8%	H23 20.5%	H23 23.6%	H23 15.7%	

(3) 全国及び岡山県学力・学習状況調査（学校・児童・生徒質問紙）における目標

- ① [自尊心に関わる項目] **肯定的な回答 80%以上**を目指す。

例「自分にはよいところがあると思うか」

「人の気持ちの分かる人間になりたいと思うか」等

- ② [規範意識に関する項目] **肯定的な回答 90%以上**を目指す。

例「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」

「礼儀正しいと思う」等

- ③ [意欲・忍耐力に関する項目] **肯定的な回答 90%以上**を目指す。

例「熱意を持って勉強している」

「言葉や式で文章やわけを書く問題に最後まであきらめず取り組んだか」等

- ④ [将来の夢や目標に関する項目] **肯定的な回答 80%以上**を目指す。

例「将来の夢や目標を持っている」「〇〇の勉強は将来役に立つ」

(4) 学校適応感尺度（アセス）における目標

（学校適応感を、六つの評価項目によって測定）

測定平均値（M）が **4.0p**（**0.3ポイント以上向上すること**）を目指す。

学年	平成27年度末	H26	H25	H24	H23	H22
小学校第3 学年～中学 校第3学年	<b>H27末 4.0</b>	<b>3.82</b>	← 3.78	← 3.79	← 3.70	← 3.67

(5) 一人当たりの総欠席日数（平成27年度末集計結果）の目標

**小学校…2.8日 中学校…4.5日**

学年	平成27年度末	H26	H25	H24	H23	H22
小学校 （全国との比較）	<b>H27末 2.8日</b>	<b>3.22</b>	← 2.89	← 3.30	← 2.93	← 2.91
中学校 （全国との比較）	<b>H27末 4.5日</b>	<b>6.10</b>	← 5.98	← 4.98	← 5.68	← 5.94

(6) 不登校出現率（平成27年度末集計結果）の目標

**小学校…0.3% 中学校…1.7%**

学年	平成27年度末	H26	H25	H24	H23	H22
小学校 (全国との比較)	H27末 <b>0.30%</b>	<b>0.43</b> (+0.04P)	← 0.43 (+0.07P)	← 0.45 (+0.14P)	← 0.55 (+0.22P)	← 0.45 (+0.13P)
中学校 (全国との比較)	H27末 <b>1.70%</b>	<b>1.97</b> (-0.79P)	← 1.95 (-0.79P)	← 2.31 (-0.25P)	← 3.04 (+0.4P)	← 3.63 (+0.89P)

### Ⅲ 取組

#### 三つのアプローチ

- 1 言語活動を重視した分かる授業づくり
- 2 だれもが行きたくなる学校づくり
- 3 家庭・地域との協働体制づくり

(1) 内容

#### 言語活動を重視した分かる授業づくり

取組	内容
<p>① 「学力・学習状況改善プラン」を作成し、分かる授業づくりを学校全体で推進</p> <p><b>視点</b> 基礎的な知識・技能の確実な習得と、言語活動を重視した自ら学び、自ら考える授業の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国及び岡山県学力・学習状況調査等を基に、学力向上のためのPDCAサイクルを確立し、子ども一人一人の学力や学習状況を評価、検証することを目的として作成する。 <b>学校</b></li> <li>・ 各小・中学校において日々の授業の充実を図る。 <b>学校</b></li> <li>・ 各校の実践について、2・3学期末にそれぞれ達成状況を評価、検証し、改善を図る。 <b>学校</b></li> <li>・ 中学校区別研修会を年2回実施し、中学校区ごとに授業改善の取組の情報共有を図る。 <b>学校・市教委</b></li> <li>・ 学力を中心課題としている学校への訪問・個別支援を行う。 <b>市教委</b></li> <li>・ 基礎的な知識・技能の習得に役立つ教材、指導方法を提案する。 <b>市教委</b></li> </ul>

<p>② 学習環境の整備とICTの効果的な活用等による学習意欲の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エアコンやICT機器等の授業に集中できる教室環境整備を進める。<b>市教委</b></li> <li>・ ICTの効果的な活用等により、多様化する児童生徒に応じた指導の工夫を推進する。<b>学校</b></li> <li>・ 教員のICT活用能力及び指導力の向上を図るため、「ICTサポーター」を全小学校に派遣する。<b>市教委</b></li> </ul>
<p>③ 授業研究の充実</p> <p><b>視点</b> 授業研究を活性化（モデル授業の実施）し、指導力の向上を目指すとともに、総社市における研修・研究を改善・充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内研究を活性化するとともに、授業改革協力員等のモデル授業を実施することで、授業研究の充実と指導力の向上を図る。<b>市教委</b></li> <li>・ 授業公開及び研究協議に校種を越えて積極的に参加し、小中高の連携を一層強化する。<b>市教委</b></li> <li>・ 市教育研修所の班別研修等の自主的な研修を支援し、言語活動の充実に関する研修や模擬授業等を通じた実践的な研修を推進する。<b>学校・市教委</b></li> </ul>
<p>④ 若手教員（市費負担職員含む）の指導力向上のための研修の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新採用3年目まで教諭、県費常勤・非常勤講師、市費講師等に対する指導力向上のための市の研修を実施する。<b>市教委</b></li> </ul>

### だれもが行きたくなる学校づくり

取組	内容
<p>① 協同学習</p> <p>＝学習の生産性を向上させるとともに、学習者のソーシャルスキルを向上させるプログラム</p> <p><b>視点</b> 単元や領域の中で意図的、計画的に取り入れ、学習意欲を高めるとともに、思考力・判断力・表現力を育成するための手立てを工夫し、協同学習の質の向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協同学習によって、それぞれの教科の何を身に付けさせていくか「めあて」を明確にした授業を実践し、質を高める。<b>学校</b></li> <li>・ 協同して自分の考えを説明したり書いたりする学習活動を単元や領域の中で意図的、計画的に取り入れるとともに、各教科等の学習指導において、思考力・判断力・表現力を育成するための手立てを工夫し、実践を積み重ねる。<b>学校</b></li> </ul>
<p>② ピア・サポート</p> <p>＝子どもが相互に支え合う活動を通して、思いやりのある子どもや学校風土を醸成するプログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異学年交流等の多様なサポート活動の実践によって、リーダーシップ、思いやりの心、感謝する心、支え合う力等を育む。<b>学校</b></li> <li>・ 自尊感情（自己肯定感や自己有用感等）を高める活動を行うことによって、意欲や忍耐力を高めるとともに、自分らしい生き方を追求する力等を育成する。<b>学校</b></li> </ul>

<p>③ SEL（社会性と情動の学習） ＝子どもが自分の感情を察知・理解するとともに自分自身でコントロールし、ストレスに対処したり問題を解決したりするなどの意志決定スキルを発達させるプログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年、8～10 単位時間程度の社会性と情動の学習によって、コミュニケーションスキルの向上を図る。<b>学校</b></li> <li>ロールプレイやグループワークなどの体験的学習、資料を用いた学習等を通して、対人関係に関するスキルや価値観を身に付けさせる。自分の感情を察知し、コントロールし、ストレスに対処できるスキルの発達を促す。<b>学校</b></li> </ul>
<p>④ 品格教育 ＝人が人と関わるルールやよい習慣を学び、仲間と磨き合うことにより規範意識を向上させるプログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月テーマに因んだポスターを活用するとともに、月テーマに係る道徳の時間の授業を実施し、規範意識を高める。<b>学校</b></li> <li>毎月、園児・児童生徒が月テーマに関する自己目標を立て、その振り返りを行う。<b>学校</b></li> <li>家庭・地域に品格教育の取組への協力を要請し、連携を強化する。<b>学校・市教委</b></li> </ul>

### 家庭・地域との協働体制づくり

取 組	内 容
<p>① 学びサポートチーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校力向上教員加配事業により市費による生徒指導員、別室登校指導員、SCC補助員、講師（授業改革・教科指導・日本語指導）等を配置し、<b>少人数指導等のきめ細かな指導の充実</b>を図る。<b>市教委</b></li> </ul>
<p>② 多様な子どもへの支援 <b>視点</b> 15年間を見通した基盤づくりのため、保幼小中の連携による自立への支援を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校力向上教員加配事業により市費による特別支援教育支援員、特別支援教育支援補助員を配置し、<b>特別な支援を要する子どもの教育的ニーズに応じた学習支援、コミュニケーション支援</b>を図る。<b>市教委</b></li> <li>スクールカウンセラーや専門相談員による巡回相談を実施し、多様な個別の相談ニーズに応え、学校と家庭との連携を更に強化する。<b>市教委</b></li> <li>個別の教育支援計画等を引き継ぐ体制を確立し、保幼小中の連携を強化する。<b>学校・市教委</b></li> </ul>
<p>③ 学習習慣の定着 <b>視点</b> 家庭と連携し、小学校中学年になるまでに学習習慣の定着を図るとともに、放課後の学習サポート及び土曜日授業を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律・しつけの徹底と学校全体で学習習慣の定着に向け、課題の出し方や課題のチェック方法のある程度統一する。（学校園ごとの長期及び短期の課題に対する共通理解等）<b>学校</b></li> <li>家庭での自学自習を促進する教材の研究開発をする。<b>学校・市教委</b></li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放課後の学習サポートを実施し、家庭学習との連携を図る。 <b>学校・市教委</b></li> <li>・ 地域に開かれた土曜日授業の実施を支援する。 <b>市教委</b></li> </ul>
<p>④ 地域人材の活用</p> <p><b>視点</b> 学校評議員会や学校支援地域本部事業等を活用したり、学習支援ボランティア等を積極的に推進したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人材を活用し、「学習支援ボランティア」を積極的に推進する。 <b>学校・市教委</b></li> <li>・ 読書活動の推進のため、地域の人材を活用した「読み聞かせ」活動等を推進する。 <b>学校</b></li> <li>・ 学校評議員会や学校支援地域本部事業等を活用する。 <b>学校</b></li> </ul>
<p>⑤ 家庭・地域への情報公開・共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報、ホームページ等を有効活用し、学校園と家庭・地域との役割分担と協働体制の充実を図る。 <b>学校</b></li> <li>・ 学力調査の分析と課題の公表をし、家庭・地域との共通理解を図る。 <b>学校</b></li> </ul>

# Ⅳ 検 証

## 1 検証計画

(1) ①学校 ②中学校区別 ③市全体(市教委)の三つの単位で現状を把握し、検証を行う。

(2) 次の調査等によって改善のための検証を行う。

- ① 岡山県学力・学習状況調査(中学校第1学年対象、年1回4月実施)
- ② 全国学力・学習状況調査  
(小学校第6学年・中学校第3学年対象、年1回4月実施)
- ③ 総社市標準学力調査  
(小学校第5学年・中学校第2学年対象、平成25年度から年1回11~12月実施予定)
- ④ 学力向上担当者連絡協議会(岡山県及び全国調査結果公表後の年2回実施)
- ⑤ 学力向上中学校区別研修会(年2回実施)
- ⑥ アセス
- ⑦ 年間総欠席日数
- ⑧ 不登校出現率

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
小5(市調査) 小6 (全国調査) 中1(県調査) 中2(市調査) 中3 (全国調査)	H24・25県調査の検証を反映 下位層25%以下	H26県調査の検証 県内NO.2 下位層20%以下	H27県調査の検証 県内NO.1 下位層17%以下	H28県調査の検証 次プラン作成 下位層15%以下
担当者会 中学校区別 研修会	H25調査結果の 分析・プランの 検証改善・取組	H26調査結果の 分析・プランの 検証改善	H27調査結果の 分析・検証改善・ 次プランの作成	H28全国調査の検証 101以上
アセス	各校で分析 指導・支援に反映	各校で分析 指導・支援に反映 +0.1ポイント	各校で分析 指導・支援に反映 +0.2ポイント	H27末時点 の検証 +0.3ポイント
年間総欠席 日数	年間で一人当たり 小学校2.8日, 中学校4.5日			
不登校 出現率	年間で 小学校0.30%, 中学校1.70%			

3年間の総括・第二次プランへ

# V 改善

短期（年2回）のPDCAサイクルによって、検証・改善を繰り返し、事業や取組内容に反映させる。

これを平成25年度から平成27年度までの長期のPDCAサイクルの中でスパイラルに推進することによって、学力向上「総社っ子輝きプラン」の目標を達成する。

平成28年度の年度当初に実施する学力・学習状況調査等の結果を受けて、平成27年度までの3年間の取組の統括を行い、次のプランへつなげる。

- (1) 全国及び岡山県学力・学習状況調査等によって学力や生活状況を評価、検証し、改善を図る。
- (2) 校内の実践について、2・3学期末にそれぞれ達成状況を評価、検証し、改善を図る。

